2021年度　事業報告書

特定非営利活動法人 イ・キューブ

１　活動の概要

今年度は、（１）「持続可能な関西都市圏2030」に付け加える事項の検討、（２）地域の活動主体と地域課題を共に扱い、市民活動のパワーをシェアし強化、（３）暑熱対策のスマートアンブレラの北摂エリアでの実装支援の３つのワークショップ及び総会を計画していたが、コロナ禍により事業の一部中止を余儀なくされ、講演会（主催）を１回、理事会での３つのワークショップの検討及び総会を実施した。また、それらの準備のための理事会を開催した。

２　特定非営利活動に係る事業

（１）　講演会

当NPO主催、健康まちづくり研究会共催で学術講演会を開催した。

開 催 日：2021年５月26日(水)11時～12時　　開催場所：(ZOOMによるオンライン講演会)

講　　師：石川聰子氏（大阪教育大学教育学部教授、当NPO会員）

講演題目：「SDGs時代、学校教育は生きていく力を育むことができるか」

参 加 者：　10名

（２）ワークショップ１：「持続可能な関西都市圏2030」に付け加える事項の検討

・SDGsの目標３，11、17を追加すべき項目とする。

・首都圏、名古屋圏での論点について、資料を入手したものの本格的な検討には至らなかった。

（３）ワークショップ２：地域の活動主体と地域課題を共に扱い、市民活動のパワーをシェアし強化

・安田邸の歴史と文化を遺す活動との意見交換はコロナ禍のため実施できなかったが、「安田邸の紙細工（3Dでのデザインと制作)」を活用したいとの意向を伝えた。

・宝塚市内での子ども食堂については、食材の配布での活動を継続した。

（４）ワークショップ３：スマートアンブレラの実装支援

摂津市平和公園にスマートアンブレラを設置し、その覆い（シェード）のもとでの日照と暑熱環境の効果を調べる健康モニタリングに当NPO法人の会員４名が被験者として協力した。

なお、３つのワークショップの検討結果を「参考資料」として文末に添付した。

３　事業実施体制

（１）　会議に関する事項

①　2021年（2020年度）の通常総会

開 催 日：2021年５月26日(水)10時～11時20分　開催場所：ZOOMでのWeb会議

出 席 者　10 名（うち委任状 3 名　　※正会員総数 15 名）
議事内容　2020 年度事業報告、決算報告の承認　　2021 年度事業計画、活動予算の承認
2021 年度役員の承認

② 理事会

	開催日時	開催場所	出席者	議事内容
1	2021 年 5 月 17 日 17 時～18 時 30 分及び 5 月 18 日 13 時～14 時	Zoom での Web 会議	理事 4 名全員	・理事の追加について ・2021 年度総会準備について （2020 年度事業報告、同活動計算書他）
2	2021 年 10 月 15 日(水) 18 時～20 時	Teams での Web 会議	理事 4 名全員	・所轄庁への報告事項の確認 ・３つのワークショップについて
3	2022 年 3 月 11 日(金) 18 時～19 時	Teams での Web 会議	理事 4 名全員	・３つのワークショップについて ・2022 年度総会の日程、講演会講師について
4	2022 年 4 月 21 日(木) 18 時～20 時	Teams での Web 会議	理事 4 名全員	・2022 年度総会準備について （2021 年度事業報告、同活動計算書他）

③ 2022 年（2021 年度）の通常総会
開 催 日：2022 年 5 月 14 日(土)13 時～13 時 30 分
開催場所：宝塚市立男女共同参画センター　（ZOOM 併用）
出 席 者　　10 名（うち委任状 1 名　　※正会員総数 13 名）
議事内容　2021 年度事業報告、決算報告の承認　　2022 年度事業計画、活動予算の承認
2022 年度役員の承認

（2） 事務局体制

① 事務局長：古武家 善成

（3） 会員

① 正 会 員　13 名　　（2022 年 3 月 31 日現在）

（参考資料）

ワークショップ1：持続可能な関西圏 2030 に付け加える事項の検討

イ・キューブの調査支援もあって，旧地球環境関西フォーラムの「持続可能な関西圏 2030」はまとめられているが，SDGs の策定や近年のカーボンニュートラルの取り組みの進展もあり，若干の追加・補完的な強化が必要になっている。都市構想は自治体が責任をもって策定・運営されるので，ここでは地域や都市圏としての構想に絞って，追加の検討を行った。

地球環境関西フォーラムの持続可能な関西圏のシンポジウムで座長報告がだされたものを再度見直し，追加すべき項目を検討した。

① SDGs の目標 3 の健康では，先行して健康な（ヘルシー）都市圏の発想の萌芽があったが，新型コロナ感染症のような側面からの予防，レジリエンス，人材育成等を再吟味しておきたい。歩いて楽しむことから歴史街道に言及してあるが，ローカリティがある方がよいと思われる。

② 気候変動の SDGs の目標 11 のカーボンニュートラルの取り組みが急速に進みつつあり 2022 年時点で見直す必要がある。グリーン水素等を含めて，圏域の域内域外のチェーンの捉え方を究める必要がある。

③ SDGs の目標 17 の中で，公正や信頼などの側面に言及がなされていない．JUST（Justice）の側面から見直しをし，欧米や各地の都市圏の扱いを学ぶ必要がある。この点では，教育における公正，協働，包摂等の，重要性を指摘した Ik 会員の昨年度の話題のその後をフォローする必要がある。

④ Iz 会員の提供されたコンサルタンツ・チームの首都圏の持続可能性を検討する中間とりまとめを検討し，さらに同時に提供されたまちづくりの碩学の提言を吟味して活かしていく，名古屋圏の論点を二人の識者と意見交換をする計画を立てたが，新型コロナ禍で機会を失した。4 月以降の新年度の企画を考えるには，アルパック名古屋事務所長の H 氏の協力を得た方がよい。

⑤ 欧州の都市地域政策の拠点であったバルセロナの JRC の活動は，Horizon2020 から Horizon Europe への切り替えと共に時期ステップに入り，とりまとめは 2021 年に発行。以上の①～③を含めて欧州の科学技術振興の調査担当者に解釈されていることからもウォッチしておく。

ワークショップ2：地域の活動主体と地域課題を共に扱い，資金活動のパワーをシェアし強化

地域課題として，宝塚市の市民活動である一般社団法人の安田邸の歴史と文化を遺す活動に協賛し，情報交換を行うことを試みてきたが，新型コロナ禍の影響を受けて対面での活動が自粛され，2020 年度の意見交換と講演会（西澤教授）の後は，新年度に入って活動が低迷した。M 会員が展開する子ども食堂も食材の配布が主となり，たまり場での活動は自粛となった。そのため M 会員と Ko 会員が何らかの学びの支援を行う構想も具体化できなかった。なお，M 会員は阪神淡路大震災時の埋め立て地盤の崩壊を取り上げ，防災ボランティアや防災の学びの活動を新型コロナ禍でも続けていて，情報交流を行うことを表明している。また，安田邸の件では一般社団の代表理事あてで事務局の喫茶店に「安田邸の紙細工（レーザー加工でのデザインと制作)」の途中経過と当方の提案を知らせたが，これまた新型コロナ対応で，懇親会（話題提供者を予定，紙細工の作者の Y さん）の提案を受けていただけないままに推移した。

ワークショップ3：暑熱対策のスマートアンブレラの北摂エリアでの実装支援

スマートアンブレラのデザインコンペと実装支援の事業は，2021年1月より具体的に動き，実行委員会を構成して推進された。デザインコンペは，アルパック地域計画建築研究所に事務所をおき，関西大学の暑熱環境研究グループの研究開発のコンセプトと財務面での負担を伴って展開された。関西大学の暑熱環境研究支援を通して，新規ネットワークが拡大することを期待して，過去のカネカ大阪事務所などでの健康づくりのICT開発などの協力連携の延長上で，企画段階から何名かの会員が参加したが，NPOの独自の役割が特定されていないので，協力に終わった感が否めない。

経験として，山林からの木材の調達には関西の都市圏では様々のルートやビジネス上での課題があり，環境面からのアプローチでは打開できない問題が多くあることを知った。持続可能な地域マネジメントで木材やバイオマスを扱う上での貴重な知見を得た。この反省に関しては資料集が作成されたが，それをもとに会員内で意見交換を催すことが期待される。

① 1月から3月初めまでのスマートアンブレラ・デザインコンペでは，I教授を審査委員長とする審査会が3回開催され，未来構想，および実装部門に応募された作品の厳正な審査の後，最優秀作品には表彰と賞金が授与された。賞金や運営上の雑費を賄うために寄付金を募り，その多くは大学教員の依頼による協賛へ快諾された企業等からの資金でまかなわれた。

② 実装部門の最優秀作品のT工務店グループの提案者に実装協力を依頼し，事務局アルパックの活動を支援した。ただし，リモート会議での意見を聞きながらアドバイスするのが主であり，あくまで主体はアルパックと関西大学暑熱環境グループであった。

③ 実装では，紆余曲折の後で，台風被害を受けた高槻の災害木の切り出しと再資源化の中に割り込んで，4m級の丸太数十本単位で搬入，加工し，現地で組み立てることにした。しかし，この過程で木材伐採，運搬，加工，現地への搬送と組み立て，覆いのテント地の調達と織り上げ，地盤工事，モニタリング，終了後の再利用などの一連の作業を効率的かつ環境負荷の少ない形で運営することのノウハウが得られておらず，試行錯誤を強いられた。予算の限界と人材等の不足で期限内の実施が極めて困難となった。

④ ８月末から９月に入り，実装された。新型コロナ感染症対で遅れたが、摂津市平和公園に設置され、その日よけの下で日照と暑熱環境への効果が調べられた。市民の行動の観察と簡単な質問紙での調査に加えて，イ・キューブの会員（O，Ka，M，T）と学生からなる被験者の健康モニタリング調査がなされた。暑さを避けた位置で滞在時間の長い被験者は呼吸数等の健康指標上でもよい傾向が期待されたが，サンプル数が限られ，統計処理が可能な状態には至らず，むしろ調査法の開発に協力したというのが実情であった。